



認定番号 12-1

樹種名	デイゴ	科名	マメ科	方言名	ディーグ	学名	<i>Erythrina variegata ver.orientalis</i>				
形状・寸法	樹高 14.1 m	胸高周囲 3.5 m	根本周囲 4.2 m	樹幹占有面積 187 m <sup>2</sup>							
	枝下高 2.5 m	枝張 東 8.8 m 西 10.0 m	南 11.8 m 北 1.0 m	最大樹冠幅 18.8 m							
通称	上殿(イードン)のデイゴ		樹齢 200 年(推定)	所有者	1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明 (備考:与儀自治会所有)						
所在地	沖縄市与儀187			状況	1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他						
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他			気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 名木 7 その他 8 なし				(最寄りの7マスデータ)	平均気温(°C)	16.4	17.9	19.5	19.8	22.9
	周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 (公園)				降水量(mm)	126	69.0	147.5	192.5	415.0
土地傾斜		1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			2013年	平均風速	6.5	6.2	5.2	5.3	4.9
	土壌	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ( )				風向	NNW	NNE	NNE	NNW	NE
基岩・母材					地点:宮城島	平均気温(°C)	28.5	29.2	27.9	24.8	20.7
地形	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪・窪 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			潮風の影響	1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)						
	土性	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない			日照条件	1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良					
根元及び周囲の植生		草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし			周辺樹木の影響	1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))					
管理状況	1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m、材質( ) 柵内面積 ( m <sup>2</sup> ) 設置年 2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類 ) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 1回 種類 アトラック樹幹注入) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他			周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし						
	過去の治療歴と内容	痕跡無し			周辺樹木との関係	1 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている					
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明			視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由 )						
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類 ) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオタニワタリ、クワズイモ、クロヨナ、オオイタビ等 ) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他										

地上部の衰退度判定（認定番号12-1）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、シヨウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く、胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.27

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係	○			
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ	○			
中・小枝落下	○			
幹の傾斜の増大	○			
その他( )				

土壌硬度調査結果（認定番号 12-1）

測定位置	表層土壌硬度	植栽基盤としての判定(硬さの表現)
認定木の東側	18.0	締まった
認定木の北側	15.6	締まった
認定木の西側	18.6	締まった
認定木の南側	19.2	締まった

※1 本認定木の健全度調査は H25 年度に実施されたが、土壌調査は実施されなかった。H28. 12. 16 に表層の土壌硬度のみ調査を実施し、その結果を上表に記載した。

※2 山中式土壌硬度計を使用し、表層の土壌硬度を測定した。

※3 各測定位置で 5 箇所測定し、その平均値を表層の土壌硬度として記載した。

※4 晴れの日が続いた後測定し、測定時土壌は乾燥していた。

※5 下表に「山中式-長谷川式の土壌硬度試験の判定基準表」を示す。

山中式-長谷川式の土壌硬度試験の判定基準表

山中式土壌硬度計の硬度	長谷川式軟らか度 S 値(cm/drop)	植栽基盤としての判定	
		根の侵入の可否	硬さの表現
27.0 以上	0.7 以下	多くの根が侵入困難	固結
~24.0	0.7~1.0	根系発達に阻害有り	堅い
~20.0	1.0~1.5	根系発達に阻害樹種有り	締まった
~11.0	1.5~4.0	根系発達に阻害無し	軟らかい
11.0 以下	4.0 より大	根系発達に阻害無し 低支持力、乾燥のおそれあり	膨潤過ぎ

引用文献 植栽基盤調査報告書作成の手引き (Ver. 5. 3) 一般社団法人 日本造園建設業協会

上殿(イードン)のデイゴ(1)

部位	所見	対応
土壌	・踏圧による土壌の固結はあまりない。	・無し。
根	・踏圧、草刈機による露出根の傷が見られ、傷に伴う腐朽が見られる。	・露出根の保護策を検討する。
	・樹体は斜面下方の南側(隣地側)に大きく傾いているが、北側の根はあて材をよく発達させ、樹体を保持している。 ・今後何らかの原因で樹勢が低下した場合、根系の腐朽の進行・枯死により、力学的なバランスが崩れ、寝返りが起こる可能性も考えられる。	・現時点では問題無いが、経過観察を実施することが望ましい。
幹	・南側(隣地側)に大きく傾いている。	・幹の傾きについて経過観察を実施することが望ましい。
	・デイゴヒメコバチ対策として樹幹注入剤(アトラック液剤)が施されている。(H27. 8. 6、11本)	・継続実施することが望ましい。
枝	・全て南側(隣地側)に向いて伸びている。	・無し。
	・高さ約 10m に中枝の途中から切られた剪定痕が見られる。 ・西側高さ約 3m に太枝が途中から切られた剪定痕が見られる。	・無し。 ・今後可能な限り、生きている太い枝の剪定は行わないような剪定管理を行い、止むを得ず剪定する場合は、適切な剪定方法で行うことが望ましい。
	・東側高さ約 3m に中枝折れが、南側高さ約 2m に大枝折れが見られる。共に腐朽している。	・切除を検討する。
葉	・食害が少し見られる。 ・着葉量は少し少ない。	・無し。
備考		

※1 本認定木の健全度調査は H25 年度に実施されたが、「所見、対応」について記載されなかった。  
H28. 12. 16 に再調査を実施し上表の「所見、対応」を記載した。

